**利用課題申請書**

（成果公開無償利用事業）

　申請日　　年　　月　　日

公益財団法人　科学技術交流財団

あいちシンクロトロン光センター所長　殿

（申請者）住　　所

　　　　　　　　　　　　　　　　所属機関

　　　　　　　　　　　　　　　　氏　　名

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 利用区分 | □ 産業利用 | 注：該当する利用区分を「■」に変更してください。 |
| □ 産学連携利用 |
| 産学連携利用の場合の連携する企業名 |  |
| 産業分野 | □素材（金属・高分子） □環境・エネルギー　□エレクトロニクス  □製薬・日用品　　　　 □その他（　　） | |

※ 利用課題終了日から50日以内に成果報告書（様式第4号の2）の提出が必要です。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1. 利用課題名（採択後はこの利用課題名で利用申込してください）   （注：利用方法と試料名を入れるなど実験内容が客観的に把握できる利用課題名としてください。） | | | |
| 2.利用者（注: 利用者の氏名等は、実験に参加するメンバーを記入してください。 | | | |
|  | 氏　名 | 所属機関 | 役職  （学生の方は学年） |
| 1 |  |  |  |
| 2 |  |  |  |
| 3 |  |  |  |
| 4 |  |  |  |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 3.実験の全体概要 | | （注：①背景、②本実験の狙いと特色、③取り組み状況、④達成目標、⑤実験方法、⑥期待される成果をそれぞれ項目別にご記入ください。） |
| 4.ビームライン名及び測定手法 | | （注：複数のビームライン利用が可能です。） |
| 5.利用希望シフト数 | | 合計　　　　　　　　　シフト |
| 6.利用計画 | | （注：どの時期に、どのビームラインを、どの程度のシフト数を利用予定かご記入ください。） |
| ７．課題の評価項目 | 産業的、社会的重要性とシンクロトロン光利用の必要性 | （注：産業的、社会的重要性とシンクロトロン光利用の必要性についてご記入ください。） |
| 新たな試みや独自の試み | （注：目的あるいは実験技術についての新たな試み、独自の試みをご記入ください。） |
| 有償利用(自主事業)への発展性 | （注：有償利用への発展性とそれによる新たな展開（実験手法や成果など）の可能性についてご記入ください。） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ７．課題の評価項目 | 事業化・実用化の可能性 | （注：産業育成上の価値と実用化・事業化に結びつく可能性についてご記入ください。） |
| 産業への貢献・波及効果 | （注：産業競争力の強化への期待度、中小企業への貢献・波及効果についてご記入ください。） |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 9.持込試料及びその他の物質（測定試料、化学薬品、ガス等）  ・全ての持込試料及びその他の物質について、以下の全ての事項を記入してください。  ・実験終了後、持込試料及びその他の物質はお持ち帰りください。  ・申込者の所属機関の安全基準を満たしていることが必要です。  ・他の実験者および当センター職員の安全確保のため、又は法令に準拠し、当センターの判断で持込みを制限することがありますので、ご承知おきください。  ・持込み後は、センターの化学薬品取扱細則及びその他関係規程等を遵守し、当該薬品実験廃棄物を適切に取り扱うものとします。  ・生きた動物、微生物、密封放射性物質等の持込みはできません。  ・保護具をお持ちくださいますようお願いします。   |  |  |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | 物質名  (化学式)※ 1 | 形態  (外観)  ※ 2 | 数・量・  ｻｲｽﾞ・容量  ※ 3 | 分類  ※ 4 | 有害性  ※ 5 | SDS等  ※ 6 | リスク  レベル※ 7 | 安全対策  ※ 8 | 使用目的  ※ 9 | | **必要記載事項：（申請時は本枠部削除してください）記入例：https://www.aichisr.jp/userguide/10/7.html**  **※1 物質名**は、化学名、慣用名等を記入(商品名はなるべく避けること)。化学式は元素記号(有機化合物の場合は示性式)で表記。組成やドープ量等の異なる試料は別々に記載(略称不可)。＜例：酸化チタン(TiO2),鉄(Fe)/シリコン(Si),エタノール(C2H5OH)＞  **※2形態**(外観)は、測定試料部位の形状、外観は試料全体形状を記入。＜例：薄膜(Siウエハ)、粉末(キャピラリー)、液体（密封ポリ袋）、電極(電池セル)、ペレット(スライドマウント)等＞  **※3 数・量**は、試料の個数・一試料あたりの重量・濃度等。**サイズ**はタテ×ヨコ×厚さ等（単位を付けること）、**容量**は容器の包装容量（㌘、ml）等を記入。＜例：5枚・0.1㌘、10×10×0.5（単位mm）、10Lボンベ＞  **※4 分類**は、SDSを確認し、表1より該当する分類を記入。複数該当する場合は複数記入。＜例 A, B, J 等＞該当する分類がない場合は「区分外」と記載。  **※5 有害性**は、表1より該当する有害性を記入。複数該当する場合はリスク区分の数字が小さい項目を2～3項目程度記入。＜例：(Aの場合)可燃性固体、(Bの場合)発がん性、生殖毒性、(Dの場合)皮膚刺激性、眼刺激性、(Fの場合)酸化性固体 等＞  表1. 分類と有害性   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | 分類 | **A** 挿絵, 記号 が含まれている画像  自動的に生成された説明 | **B** 挿絵, 抽象 が含まれている画像  自動的に生成された説明 | **C** アイコン  低い精度で自動的に生成された説明 | **D** アイコン  自動的に生成された説明 | **E** アイコン が含まれている画像  自動的に生成された説明 | | 有  害  性 | 可燃性/引火性ガス  エアゾール  引火性液体  可燃性固体  自己反応性化学品  自然発火性液体  自然発火性固体  自己発熱性化学品  水反応可燃性化学品  有機過酸化物 | 呼吸器感作性  生殖細胞変異原性  発がん性  生殖毒性  特定標的臓器毒性  (単回ばく露)  特定標的臓器毒性  (反復ばく露)  吸引性呼吸器有害性 | 急性毒性 | 急性毒性  皮膚刺激性  眼刺激性  皮膚感作性  気道刺激性  麻酔作用 | 金属腐食性物質  皮膚腐食性  眼に対する重篤な損傷性 | | 分類 | **F** 挿絵 が含まれている画像  自動的に生成された説明 | **G** 時計, 挿絵 が含まれている画像  自動的に生成された説明 | **H** アイコン  自動的に生成された説明 | **I** アイコン  自動的に生成された説明 | **J**法令で定められた物質 | | 有  害  性 | 支燃性/酸化性ガス  酸化性固体  酸化性液体 | 爆発物  自己反応性化学品  有機過酸化物 | 高圧ガス | 水性環境有害性 | 毒物、劇物、特定毒物、危険物、特定化学物質、有機溶剤 |   **※6**「無害」を含めすべての物質について、持込み試料の供給元が作成した**SDS等**に連番を付与し連番を記入。必ず本申請書類にSDSを添付する。持込み試料のSDSがない場合には主たる成分のSDS、或いは類似物質のSDSを添付。  **※7リスクレベル**は、リスクアセスメントをおこなった結果を記載すること。4段階評価でリスクレベル2の場合は 2/4 と記載。Sの判定が出た場合はSも記入。厚生労働省のホームページ「職場のあんぜんサイト」で、支援システムを提供しており、サイト上で必要な情報を入力すると、リスクレベルと、実施すべき対策、参考となる対策シートが得られます。  **・持込試料等のリスクアセスメントについて。**　 https://www.aichisr.jp/userguide/10/8.html  **※8安全対策**は「区分外」を除き全て記入すること。＜例：フィルムシートに密封、保護メガネ・手袋・マスク等着用、試料搬送導入機で真空中搬送、窒素充填バッグ中で装置へ導入等＞  **※9使用目的**は、測定、器具洗浄、in-situ実験に使用等を記入。 |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |   （注：以下の例に従って記入のこと。行数不足時は要追加。） |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 10. 利用を希望する当センターの装置、器具等 | **記載例：（申請時は本枠部削除してください）**  In situ XAFS測定用フローセル(金属セル・透過用石英セル・蛍光用石英セル・リンカム)、施設ガスライン(H2, O2, N2, He)、温度制御装置(リンカム、クライオスタット)、ケミカルグローブボックス、簡易グローブボックス、ドラフトチャンバー、ペレット作製器、超音波洗浄機、冷凍庫、冷蔵庫、電子天秤　など | | |
| 11．持込装置、器具等  （記憶媒体等はウイルスチェック済のものであること） | 装置・器具名 | 仕様※ | 安全対策 |
|  | **実験に使用する装置・器具等について全て記入してください。**  **【要事前相談】（申請時は本枠部削除してください）**  記入例： 引張応力負荷装置、充放電装置、ガス雰囲気専用セル、電源、UVランプ など。なお、ガス供給装置の持ち込みの場合、配管図を添付すること。 |  |
| 12．特記事項 |  | | |

●申請者兼利用責任者及び利用実験者の連絡先の取り扱いについて

記載頂いた連絡先については、当センターが利用促進のために実施する各種事業のご案内の他、利用者のご意見・ご要望を伺うアンケート調査に使用する場合があります。

20221201